

# はにい

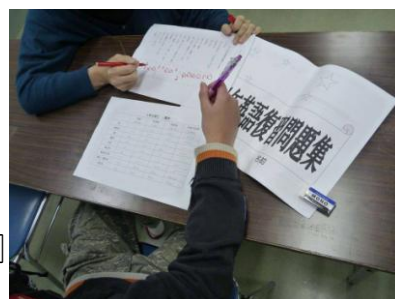
## 福祉からの子ども支援

平成26年1月17日

県内のとある場所、午後7時過ぎ。中学校3年生の生徒2人が楽しそうに学習に取り組んでいます。ここは、福祉事務所から委託を受けたNPO法人が、生活保護世帯の子どもたちの居場所づくりや学習支援を行う教室です。この日は2人だけでしたが、全員そろると10名ほどになるそうです。

ひとりの生徒が、スタッフに相談しながら「この方がいいかな」「やっぱりこっちのやり方でやろう」と生き生きと自分の課題（この日は学校の宿題でした）に取り組んでいます。スタッフは、目線が生徒より低くなるようにしゃがみこみ、一緒に考えながら「それってすごい考えだね」と子どもの考えを認めつつ「こういうのもあるかもしれないね」とアドバイスをしています。どんどん本人からアイデアが出てきます。あっという間に課題が終わりました。

通っている子どもたちにインタビューしました。  
「この教室は楽しい？」  
『楽しい！ここに来る日は朝からうきうきする』  
「どんなところが楽しいの？」  
『ここに来て友だちができたし、先生に何でも相談できるから』  
とニコニコしながら、話してくれました。



活動終了後、スタッフの方に話を聞きました。  
「本当に生き生き活動していますね。子どもたちにどのように関わっているのですか？」  
『特別なことはしていません。1人ひとり相談にのりながら、課題を決め、一緒に取り組んでいるだけです。学習支援だけでなく、生活指導をしたり、時には悩み相談にのったりもしています。学校とは違う立場ですが、子どもたちの毎日の生活がよりよいものになるよう支援する気持ちは学校と同じです』  
「子どもの笑顔を見て、本当にここが居場所になっていることがよくわかります。きっと休まずに来るんでしょうね」  
『たまにお休みすることもあります。すまなそうな声で電話をかけてきて「今日は、友だちと遊ぶことになったから休みます」と言うんです。』  
「教室での生活をきっかけに、友人関係が広がり始めたのですね」  
『学校や地域でもっともっと活躍できるよう、ここでたくさんエネルギーを充填して欲しいと思っています』

